

平成 29 年 11 月 10 日（金）

川口市民大学

「川口の地域学講座」

「川口学」をはじめよう！

谷川 隼也

小林 竜太

1. 今なぜ地域学なのか

○地域学とは何か～二つの地域学～

①地域科学としての地域学

20 世紀中庸、アメリカの経済学者ウォルター・アイサードによって提唱される。

「地域にかかわる研究で、現地研究に根ざして人文科学・社会科学・自然科学を総合的、俯瞰的に再編成しようとする学問的営為」

②生涯学習としての地域学（※「地元学」とも言う。）

自治体をはじめ、大学や NPO、市民等が主体となって主に市民大学等で行う生涯学習事業としての地域学。

例えば、地域に関する学習機会、一連の講座事業の総称であったりする。

大きく言えば、地域の住民を主要な担い手とし、地域の自然、人、事象などを学ぶことによって、個々人が郷土観を確立し、ひいては地域活性化や地域づくりへの動機づけを図っていこうとする。多様かつ多彩な活動。

「地域のなかで考える、地域とともに考える」

「あるもの探し」、「地域に学ぶ」

○地域学の例

水俣学（吉本哲郎『地元学をはじめよう』2008 年、岩波書店）、札幌学、さっぽろふるさと学、あきた学、東北学、津軽学、大石田学、山形学、いわき地域学舎、かわぐち学、すぎか学、ふるさと日光学、羽生学、すみだ学、川崎学、横浜学、掛川学、山梨学、阪神学、丹波学、福井学、金沢学、播磨学、出雲学、鳥取学、阿波学、長崎学、ゆぎ学、佐賀ふるさと学、木曾川学 他

○地方創生と地域学～地域文化をめぐる経過～

2005～ 平成の大合併

2007 観光立国振興基本法

歴史文化基本構想

2008 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律

2011 文化芸術基本法

※地方分権の中で、地域は、地域文化を認識する必要がある。

2. 「川口学」の提唱

○「川口学」とは

川口市という地域を多様な切り口から学習・研究する地域学。川口市に関するあらゆるものが「川口学」の教材となる。

○「川口学」の目的

市民一人ひとりが自分の住む川口市について学び、川口市民としてのアイデンティティを確立することで、豊かな地域づくりへとつながる人づくりを目指す。

「川口」という地域から多くの文化を学び、私たちの生活や人生、地域生活に活かしていきましょう！

3. 地形発達からみる「川口」のなりたち

(小林)

○台地と低地のなりたち

武蔵野台地と大宮台地の違い、芝川がつくった低地の高台（自然堤防）

○地形からみる「3つ」の川口

谷が少ない台地＋自然堤防が少ない低地 戸塚・安行

谷の多い台地＋自然堤防が多い低地 神根・鳩ヶ谷・新郷

自然堤防が非常に多い低地 芝・青木・中央・南平

4. 地場産業から見る「川口」地域の特色

○川口は「多面性産業文化都市」～地場産業発展による地域形成～

中央地区 鋳物関連産業（機械業・木型業他を含む）

横曽根地区 機織業

南平柳地区 味噌醸造業

青木地区 和竿業、鍛冶業

新郷地区 農業、植木・苗木、染色、花卉

神根地区 花卉、軟化栽培、柿渋、機織業

芝地区 機織業

安行地区 植木・苗木業、農業

戸塚地区 農業、植木・苗木

鳩ヶ谷地区 商業、和竿、染色

※それぞれの村が、それぞれの歴史・文化を背負って、何故か一つになった。まずはそれぞれの歴史・文化を尊重すべきである。

5. 「川口学」研究テーマの具体例

○川口の優秀作品は市外にあること

鋳物作品（学習院正門・赤坂迎賓館門・旧浅香宮邸門・天水鉢・聖火台）
植木・果樹等各種苗木（りんご・みかん・びわ・さくらんぼ他）

○江戸（東京）との結びつき

東京・川口銑鉄鋳物組合、京浜重工業、洋風建築、駒込染井、江戸和竿

○大宮台地鳩ヶ谷支台の文化圏 = 「御成道文化圏」

○芝川水運による地域形成

旧田中家住宅は芝川のランドマーク、舟運力、鋳物関連業者

○関東代官伊奈氏による地域開発の重要性

赤山は地域開発の拠点、赤山街道、新田開発、地場産業育成
見沼溜井の恩恵を受けた川口、四か領用水・湊江用水、赤堀用水・根井堀用水他

○川口は水の都か

鍋屋の井、湧水、池・沼、蛇信仰、氷川信仰、弁天信仰

6. おわりに～愛する「川口」の将来の地域づくりのために～